

3.11 — 女性たちの決断

原発事故をめぐる—



2014年9月21日（日）午後1時30分～4時30分

東京ウィメンズプラザ ホール

参加費：会員 1,000円 会員外 1,500円 学生 500円

パネリスト 二瓶由美子さん（桜の聖母短期大学教員）

島田 恵さん（映画監督）

おしどりマコさん（芸人）

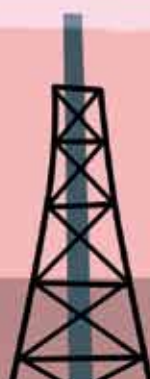
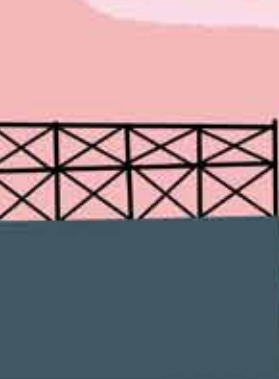
コーディネータ 角田由紀子（支援教育センター代表理事）

原発事故から三年半経つ今、事故など無かったかのように、政府は原発の再稼働と輸出計画を進めています。「反原発！」の声はかき消され、戦争をする国に舵をきりました。「国民の生命と平和を守る」という建前とは裏腹に、私達の生活と人権はこれまで以上に脅かされています。

福島の女性と子どもたちは、三年半をどう生きてきたのでしょうか。事故直後から彼女たちは沢山の決断を迫られ、これからも決断を求められるでしょう。平穏な日常を丸ごと否定し、未来さえも破壊してしまうのが原発事故です。

私達はこれからもこの列島で生きていきます。原発事故後、福島を離れた人がいます。福島に留まった人たちもいます。どちらの決断も困難だったことを、私達は肝に銘じるべきでしょう。

原発との共存不可能性を苦い経験を通して知らされました。54基もの原発を持つ日本で暮らすために、ひとり一人ができることを、決断すべきことを、私達自身の問題として考えることが必要です。安全に暮らすという、私達の根源的な希望を持ち続けるための対話の場として、今回の公開講座を開きます。



パネリスト、コーディネータ プロフィール



にへい・ゆみこ 桜の聖母短期大学教員。勤務中に東日本大震災にあい、その多くが未成年である学生と放射能の影響を意識しながら福島で生きるという課題を抱えチェルノブイリ福島調査団に参加、多様なメンバーと復興支援にあたる。ジェンダー法学会会員、日本女性学会会員。



しまだ・けい 1986年のチェルノブイリ原発事故後初めて六ヶ所村を訪れ、核燃問題で揺れる村に衝撃を受け取材を始める。2011年から映画制作に乗り出し、『福島 六ヶ所 未来への伝言』を制作。第7回平和・協同ジャーナリスト基金賞受賞。



おしどりマコリーヌ 鳥取大学医学部生命科学科中退。芸人をしながら、理系女子として原発事故・公害問題を取材して記事を書く。DAYS JAPAN、マガジン9などに連載中。漫才協会会員、公益社団法人自由報道協会理事。DAYS JAPAN編集委員。アコーディオン、現代美術の仕事などでも活躍。

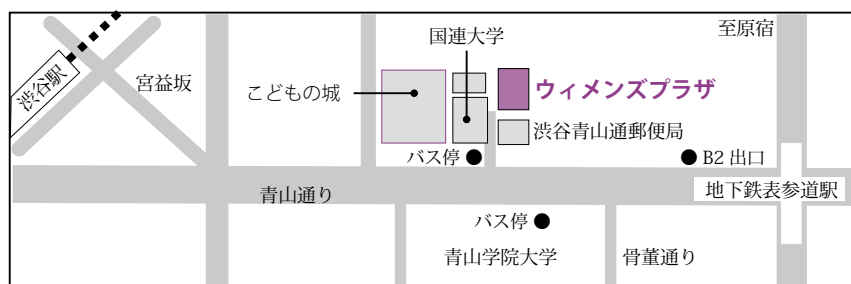


つのだ・ゆきこ 弁護士。セクシュアルハラスメントや性暴力、ドメスティック・パイオレンス事件などを多く手がける。日弁連両性の平等に関する委員会委員、ジェンダー法学会理事、NPO法人女性の安全と健康のための支援教育センター代表理事。主な著書に『性と法律』（岩波新書、2013）など

東京ウィメンズプラザ
東京都渋谷区神宮前 5-53-67

<交通>

東京メトロ銀座線 表参道 B2 出口 徒歩 7 分
JR 山手線 渋谷駅 徒歩 12 分



特定非営利活動法人 女性の安全と健康のための支援教育センターは、女性・子どもへの暴力と取り組む支援者のための非営利団体です。1999年に設立し参加会員の会費で運営されています。研修や公開講座によりさまざまな専門分野で活動する人を養成し、ネットワークづくりをめざしています。

会費（年間） A（正会員）6,000円 B（学生会員）3,000円 C（賛助会員・団体/個人）10,000円

★皆さまの会費は、センターの活動を支える貴重な財源です。年4回「センター通信」をお送りしています。

資料請求は、下記女性の安全と健康のための支援教育センター事務局までお願いします。

★資料準備などのため、以下の内容を記してFAXまたはEメールで事前にお申し込みいただくと助かります。ホームページからお申し込みいただけます。

2014年9月公開講座申込み

お名前（ふりがな）

ご住所 〒

電話

FAX

email

職業・所属など

会員 会員外 今回入会希望（入会申込書一式をお送りします）

送信先 FAX : 03-5684-1412 email : shienkyo@vega.ocn.ne.jp
NPO 法人 女性の安全と健康のための支援教育センター http://shienkyo.com